
ヒマワリ

朔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒマワリ

【Nコード】

N5151B

【作者名】

朔

【あらすじ】

暑い暑い夏の季節が来る度に思い出す、キミ。ずっと側で笑ってくれていると思っていたでもそれは夢い夢だった

（前書き）

これは“月の面影”と対になっている独白的詩です
今後彼らの話を書くつもりなのでプロローグ（エンディング的ですが）
と思って読んで頂けたら嬉しいです。

暑い暑い夏

この季節が来る度に思い出す。キミ。
ずっと側で笑ってくれていると思っていた
でも それは儚い夢だった

ヒマワリ

ヒマワリを見る度思い出す

くるくると変わるあいつの表情

その中でも一番好きだったのは笑顔

ヒマワリのような、と思ったのはいつだったか
お互いに別れなんて考えてもなく

でも、あいつはわかっていた

いつか別れが来ることを

そのときのために精一杯俺を想ってくれていた
自分でも思っていた以上に想われていた

俺はそれに気付けなくて

居なくなっと思って思い返してやっと

気付いた

夏の暑い日

あいつがやけに甘えてくる

「暑いから離れろ」と言うと、いつもなら拗ねて怒るのに

それでも笑いながら縋って甘えてきた

その夜は何度も何度もカラダを繋げた

何度も何度も求めてくるから

抱いてる間、あいつは本当に幸せそうな顔で微笑んでいた
限界まで抱き合って意識を手放す寸前に何か言っていたが、返事を
返す事も出来ず

俺はそのまま眠りについた

“ごめんね。貴方には凄く悪いと思うけど、最期まで側にいたい
んだ。

大好きだよ、アリガト…”

窓から差し込む朝日のまぶしさに目を開けた
隣に眠るあいつ

しかしそれは目覚めることのない永遠の眠りだった

本当に幸せそうに微笑んで眠っていた

ただ…

頬にはその笑顔には似合わない涙が一筋

流れていた

後から聞いた話によればあいつは数年前からこうすることを決めて
いたらしい

18歳になったら

少しでも楽に逝くことが出来るようにと渡した薬
そのときあいつは有難うと笑ったという

今年もたくさんさんのヒマワリが咲いている

笑うあいつによく似ている

思い出す、キミの笑顔

思い出すのはただ

笑顔ばかり

あの恋は最初で最後の恋だった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5151b/>

ヒマワリ

2010年10月17日09時14分発行